



2023年9月12日
第24号

JR 東労組 Yokohama

JR 東労組横浜地本

発行人 助川一実
編集情宣担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

イーハトーブ

9月10日号

野村農林水産大臣が「汚染水」と発言したことに対し「風評被害を収める立場の者が…」などと批判が集まったことに違和感を覚える。

8月24日、東京電力は汚染水を浄化処理した水の海洋放出を開始した。海洋放出は最低でも30年以上かかるという。福島第一原発事故によって1〜3号機内に溶け落ちた核燃料デブリの冷却水と地下水や雨水などが混ざり高濃度汚染水が発生し続ける。汚染水の発生を止めるには原発の廃炉が前提となるが、880トンある核燃料デブリは事故から12年5ヶ月経った今でも1グラムも取り出せていない。

政府はこれまでも「武器輸出三原則」を「防衛装備移転三原則」と、「敵基地攻撃能力」を「反撃能力」と言い換えをおこなってきたが、そのたびに本質が隠される。「汚染水」を浄化処理した水だから「処理水」と呼ぶことはできるかもしれない。しかし、先が見えない廃炉までの間、基準値を下回っていようが核物質によって海洋が汚染され続けられることに変わりはない。

マスメディアによって農水大臣の発言や中国からの批判がクロースアップされているが、それは直接の問題ではない。政府が原子炉の運転延長や次世代原発の新增設といった原子力政策の大転換図った今だからこそ、福島第一原発事故の大きさに向き合っていくべきではないだろうか。

(Y・W)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。